

行政視察報告

視察日時	令和2年10月14日(水) 午後1時45分～午後4時15分
視察場所	八戸ポータルミュージアムはっち、八戸まちなか広場マチニワ、八戸ブックセンター
視察項目	八戸市中心市街地活性化事業「はっち」「マチニワ」「ブックセンター」の整備について
視 察 者	総務文教常任委員会委員8名 同行当局職員1名 事務局職員1名
視察概要	<p>人口23万人ながら東北有数の工業都市であり陸海空の交通結末点。商圏人口は63万人の八戸市も、郊外化が進み中心街の吸引力低下に歯止めをかける「八戸市中心市街地活性化計画」を実施し成果が出始めている。掲載事業「はっち」「マチニワ」「ブックセンター」の効果と今後の展望について現地を視察し説明を受けた。</p> <p>中心市街地の大型商業施設の閉店や郊外移転が加速し歩行者通行の減少が続いたことを受け、H20年に中心市街地活性化基本計画がスタート。現在第3期計画で新美術館整備が進められている。H23年に八戸ポータルミュージアム「はっち」が整備され、以降「ブックセンター」「マチニワ」などの施設整備がされてきた。「はっち」開業の3年前に“市民ワークショップ”開始と同時に歩行者通行量の減少が止まり横ばいの状況が続いている。「はっち」は、H23年開業以来年間平均80万人の来館者を記録。＜つながる・うみだす・ひろがる＞複合交流拠点施設として多くの市民の多彩な活動の創発に繋がっている。特産品の売店・市内ものづくりの紹介ブース・屋内遊戯スペース・調理室・コワーキングスペース・会議室等、実に多彩な機能が集積されていた。</p> <p>「八戸ブックセンター」は、＜本を「読む人」を増やす・本を「書く人」を増やす・本で「まち」を盛り上げる＞という3つの方針でH28年に開業し年間平均14万人の来館者。書店だが図書館や本の博物館のような商品構成でマニアックなものまでテーマごとに整理され陳列されていた。ハンモックの読書スペースや店内でアルコールも含む飲食ができる等他にない魅力的を感じる。「どこにもない面白い本屋ができるらしい」と聞きつけ、以前は代官山T-SITEに勤務していて移住してきた女性が店長となっていて、その方から説明を受けた。</p> <p>「マチニワ」は、「はっち」とメインの通りを挟んだ向かい側に位置し「ブックセンター」と通りとの間にあった未利用地へ整備された“屋根付きの広場”のような施設。この施設単体だとよくわからない施設とも言えるが、「はっち」「ブックセンター」などの周辺施設のほかに、実は中心市街地の道路</p>

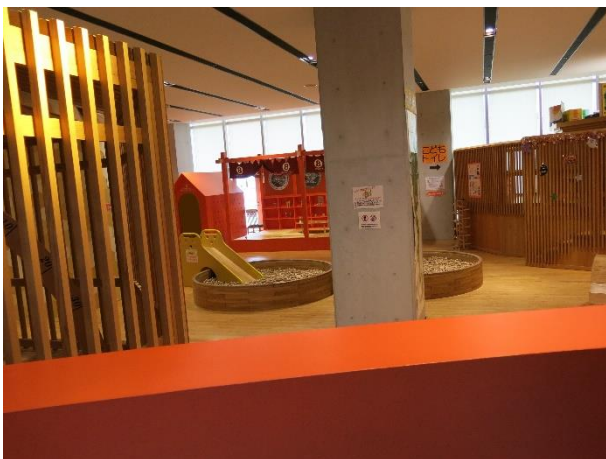
	<p>に一方通行が多く、3施設を囲むように方面別のバス停が設置されていることなどから、通勤通学などのバス待ちに漂う人が多いことに気づく。それらの人たちにとって“心地よい居場所”が増えたことが、周辺への民間投資を誘発させ、複数のマンション建設に繋がっていた。まだ道半ばではあるが、その他託児所の開設など各種機能の集積努力も含めて、まちなかの居住人口が着実に増えていることは素晴らしい成果だと感じた。</p>
<p>本市に生かせる視点</p>	<p>「はっち」整備の3年前から度重なる市民ワークショップを実施し、多くの市民が「まちなかでどう過ごしたいか」を主体的に考え、市がそれを形にして来たことが成果につながっていると感じる。</p> <p>中心市街地活性化計画が行ってきたことはハード事業だが、それをきっかけに<まちを楽しむ><まちを育てる>意識を持った人々が繋がり、生み出された活動がさらにその輪を広げている。本市でも学生を中心としたまち育て活動が広がってきており、各種ワークショップの開催も増えているので、十分にソフト面の成果は取り入れることが可能と思う。</p> <p>今後はいかに市民の中に多彩な活動を創発させる拠点を創るかであり、「ナセBA」と相乗効果を生み出すことを念頭にした周辺整備と、公共交通の結末点としての機能強化が求められる。</p>



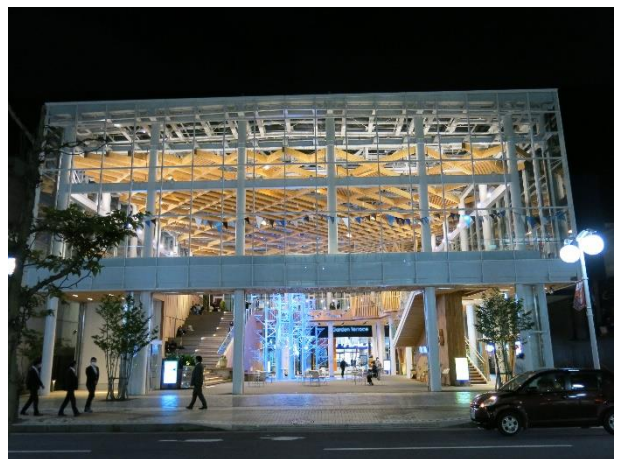
↑「はっち」外観



↑「はっち」内の展示物



↑「はっち」内の遊技場「こどもはっち」



↑夜間ライトアップされた「マチニワ」